

3-11 東日本大震災の被災地支援活動 Act2

◎6/4、福島県飯舘村/Nさんから預り依頼の電話が入る。南相馬市との境に八木沢峠があるが、その近くに住む方。携帯は圏外、固定電話での話だと雑種、中型よりやや大きい、オス・未去勢、「猿、イノシシ、ハクビシンを見ると吠える。猟犬の血でも入っているのかも…」という。

6/7、飯舘村役場に電話して放射能の状態を聞く。

「防護服は必要ですか？」

「マスクミなんかの人にはそんな恰好をたまに見ますけど、私なんかは半袖ですよ。ま、ご心配でしたらそのほうがいいでしょうね」

念のためにマスク、ゴム長、ビニールのフード付き雨合羽上下(防護服のつもり)を用意。村に差し入れるフード、ペットシートなど支援物資を調達。

6/11未明 1:30 青森を出発。仙台まで4時間、福島まで1時間、川俣町を通過して1時間。走りっぱなしで6時間。

震災から3カ月、東北道も平常に戻っていて観光客が乗ったバスをたまに見かける。

水沢を過ぎたあたりから激しい雨…。雨のなかを疾走、スピードを出せない。路面が所々、黒く光っている。地震で亀裂ができて補修した跡？

宮城県に入ると通勤ラッシュにぶつかったらしく大混雑。青森とは全然ちがう。

福島西インターで下り、国道114号に乗る。前方に陸自のトラックが3台。川俣町から飯舘村へは雲谷を走っているような山道。対向する車はありますが、後に続く車はありません。途中で見かけた店はみな閉じていて、通行人はまばら。

am9:30、待ち合わせの役場前に到着。Nさんはすでに来て待っていました。80歳近くになる農家の方。軽自動車に乗っていたドンといよいよ対面。ネット環境にない山中なのでどんな犬なのか、想像がふくらむだけでした。ところがドンは名前・強面の外見と全然違って、唸る

こともないし、初対面5分でこちらの顔をペロツ…！体型・表情は



ラブそのもの。ただし、毛色は茶褐色の甲斐犬のような感じです。

ドンは飯舘村で猿、イノシシが出るために飼われていたワンちゃん。猿やイノシシを見ると吠えだして威嚇するとのことなので、引き取りは正直ためらいました。どんなワンちゃんで、預りさんに託すことができるのか心配だったのです。

Nさんに預り承諾書にサインしてもらい、村社会福祉協議会の方にフードなどを渡しました。一週間後には全村

避難で空っぽになるということでした。Nさん「生きて戻れんかも知れんなあ…」とポツリ。広場で自警団の点呼が行われていました。役場前に放射線量を測るモニタリングポストがあり、すぐ隣に心和ませ地蔵がありました。

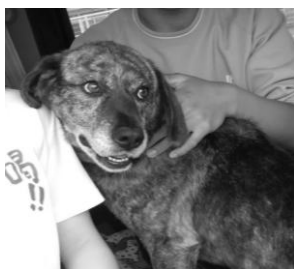


am10:30頃、帰路に。途中から雨。
pm1:00、福島市の県北保健所でスクーリング、異状なし。検査員(一人は長崎県職員)の前でドンが大シヨンベン、慌てて外に連れ出す。

東北道に入ると雨も上がり、ぐんぐん暑くなりました。途中のサービスエリアでドンの散歩、水補給、トイレタイム。前沢SAでかわいいわね。どこへ行くの」とドンを撫でてくれた中年の女性。津波で亡くなった家族の葬式を終え、お骨を持って東京に戻られるという。

pm10:00頃、青森着。何十年ぶりがのハードなトンボ返りの長旅。

青森での一時預り先は築木館のSさん宅。イノシシは出ないが、鹿はしょっ



ちゅう出るという所なのでドンにとっては飯館村と似たうってつけの環境です。

一週間、世話人宅で慣らし、6月18日夕方、県愛護センターの駐車場でSさんご家族に引き渡し。中学生の息子さんにすぐ慣ついたのでほっとしました(表紙)。



その後、ドンはSさん宅で飼うことになり、元気に暮らしています。
※8/9、飯館村長の菅野様より礼状をいただきました。

◎福島県大熊町より犬2匹受け入れ。

6/23、福島県浪江町からむつ市に一時避難していたSさんの成犬2匹をドッグガーデン/Hさんに預ってもらう。
※7/13、飼い主さんご家族が福島県に帰ることになり一緒に戻りました。

◎7/3、夏もの衣料が足りないとの大槌町復興室のお話を聞き、大槌中学校(火災で焼)グラウンドに設けられた特設会場テント内で開くこととなりました。

支援物資は呼びかけに応じてくださったみなさんから提供されたものが中

夏もの衣料無料バザー
7/3(日)午前10時~午後2時30分

イオン青森店様、タイアン武蔵野店様、立正佼成会平和基金様、その他個人有志のみなさまからご協力をいただきました。

主催 ワンニャンを愛する会
〒038-0042 青森市新城市平岡160
☎090-5453-0867 FAX・TEL017-788-4410
メール wanryan12yob@hotmail.co.jp ワンニャンの広場 www.wanryan12.org/



心。夏ものの衣料、下着、鍋・日用雑貨用品などの生活物資、犬・ねこ用フード、トイレシート、おやつ、蚊取り線香、虫よけ製品、ひんやりマットなどの動物用物資でした。



たくさんの方が会場を訪れ、賑やかなバザーになりました。衣類については

お一人5点以内とする予定でしたが、途中から制限なしとしました。

am10:30~pm2:30までの4時間でしたが、2台の車に積み込んだ物資は見る見るうちに無くなりました。果物類が足りないと聞いていたので、会員のYさんが弘前のリンゴ農家から調達してくれたリンゴのシロップ漬けを提供したところ、とても喜ばれました。

物資を快く提供してくださった皆様には感謝申し上げます。

イオン青森店様、タイアン武蔵野店様(東京)、立正佼成会平和基金様(東京)、

後藤様(大鰐町)、岡部様(弘前市)、伊沢様(同)、松下様(三重県)、八嶋様(野辺地町)、田村様(千葉市)、黒滝様(青森市)、長野様(横浜市)、小野様(五所川原市)、D.P.C.ダイゴペットクリニック様(愛知県豊田市)、小林様(千葉市)、茅野様(大阪市)、佐々木様(刈谷市)、伊勢野様(青森市)、その他会員・友人のみなさん、ご協力ありがとうございました。

コーギーは3/29、城山公民館に避難していたMさんの愛犬ムムちゃん。ちょっと太った感じ。お盆前には仮設住宅に入れるとのことでした。



帰路、仙台市内で保護された子猫4匹を仙台市/Nさんから譲渡支援で受け入れました。

◎7/27、仙台市からの猫7匹を引き取りに南盛岡インターへ。このうち親子猫6匹は仙台市動物管理センターからの譲渡支援の依頼があったもの。リレー協力は仙台市/Tさん。

◎8/1、仙台市から子猫3匹を譲渡支援で預る。仙台市/Tさんが青森インターまで届けてくれました。

◎8/7、弘前市豊田児童センターで被災猫の譲渡を含めた臨時譲渡会を開催。

◎8/29夜遅く、八戸に避難していた福島県浪江町/Oさんから猫1匹を十和

田で引き取る。

◎9/2、8回目となる支援物資(食品+ペット用品他)を大槌町に提供。同町ボランティアセンターに佐川急便で送る。

◎10/20、福島からの譲渡支援の猫1匹を引き取る。盛岡市/Fさんが届けてくれる。十和田市/Sさんが預ってくれることになり、久しぶりにおじゃましました。

◎11/26、譲渡支援で仙台市/Sさんから犬1匹を預る。

◎12/9、譲渡支援で仙台市/Mさんが

ら犬1匹を譲渡支援で預る。

◎岩手県大槌町の猫たちを対象に不妊・去勢手術無料プログラム(東北ろうきん青森県本部地域貢献助成事業)を実施。

12/21早朝4:30、手術する猫を引き取りに出発。今回は人間の冬物衣料もついでにお届け。雪は止んで、月の光が明るい。東北道は浪岡辺りから吹雪になり、視界は最悪。除雪車が所々で作業。その分、スピードは出せない。東北道は浪岡辺りから吹雪になり、視界は最悪。除雪車が所々で作業。その分、スピードは出せない。岩手山SA辺りまでは雪があったのですが、盛岡を越えるとまるで春のよう。花巻JCT~釜

石道路・東和~遠野近辺も大した雪ではなく、仙人道路を下りたら釜石は小春日和。

市内はまだ信号が復旧していません。警察官が手信号で交通整理。7月に来た頃と同じです。大通りを左折し、青海トンネルを抜けると鶴住居(うのすまい)。崖上の道から眺めるとがれきの山は少なくなっていますが建物跡の土台だけが残されていて、被害の大きさをあらためて思い知らされます。津波さえなければ景色を楽しめたのに…。

11:00頃、大槌町ボランティアセンターに到着(ポスターは47カ所ある仮設団地に貼ってくださるようお願いしていました/表紙)。奥まった小高い土地にあり、プレハブが並んでいました。隣りは町社会福祉協

東北ろうきん青森県本部地域貢献助成事業

ねこの不妊手術

無料キャンペーン

先着15名

生ませたら増えちゃった!
そんなことにならないうちに、不妊処置を…。

(生殖器系疾病の予防にも効果)
下記条件で、被災ねこちゃんを
当会が費用負担で実施します。

健康なねこが条件。
手術できない場合があります

- 対象ねこ 飼い主さんが仮設または避難先住宅にお住まいの方
- 募集期間 11月28日(月)~12月20日(火)
- 募集頭数 メス15匹/1世帯1匹に限ります。
- お申込先 電話090-8453-0867 ワンニャンを愛する会
- 該当ねこの決定 電話でのお申込み先着順
- お預り日時・場所 飼い主さんに直接ご通知(大槌町内)
- 実施日 12月23日(金)~24日(土)※変更する場合があります。
- 主催・お問合せ ワンニャンを愛する会 代表 敦賀秀男

T038-0042 青森市新城字平岡160
・携帯 090-8453-0867 090-2954-6092
・メール wannyan12yobi@hotmail.co.jp
・ホームページ 「ワンニャンの広場」wannyan12.org/





議会。荷物を下ろしていると、支援に
来ていたグループのリーダーの女性牧
師さんとあいさつ（この方はノラを数
匹飼っている）。福島原発事故の話にな
り、愛護活動のお手伝いしたいとのこ
とでしたので、全国動物ネットワーク
（約 150 の愛護団体が参加。本部／茨
城県つくば市、坂本博之法律事務所内）
に連絡を取ることをお勧めしました。

11：30頃、飼い主さんを待ってい
るとドドーンと大音響。ビリビリと空
気が裂ける感じ。地震の地鳴りでした。
センターの地元出身の女性スタッフが
表情を曇らせました。初めてのことで
驚きましたが、時々このような地震が
あるとのことでした。

飼い主さんから猫を預って 12：30
頃、帰路へ。Nさん、Fさん、Kさん
は仮設住宅に入っている方で、猫はあ
となしい子たちばかり。

途中、
小さなプレハブの
弁当屋さん「釜石
負けねぞ
まかない
食堂」に



寄って昼食の弁当を買いました。

遠野辺りから温度が下がったので、
路面はアイスバーン。釜石道路から東
北道に入ってから追い抜いたり追いつ
かれたり、夕方のラッシュ時にぶつか
ってかなり混雑。

20：00頃、無事帰着。いよいよオ
ペ。青森も雪は小康状態です。

12/25am9:30、不妊・去勢手術が済
んだ猫たちを届けに大槌町へ。この日
の荷物は動物用支援物資を主にポラン
ティアセンターと飼い主さんにお届け。
今度は東北道全線が雪道。盛岡を過ぎ、
花巻JCT～東和～遠野も深い雪。前回
とは全然違う雪景色。ところが仙人道
路を下りて、釜石に入ったらまたまた
ほかほか陽気。

pm1:30、釜石線小佐野駅前でNさん
に引渡し。Nさんがキャリーを覗き込
むとかわいい声で「ニャー…」

大槌町ボランティアセンターの前で
飼い主さんを待っている間に、関東か
ら来ていた学生グループのみなさんと
しばし犬猫談義。日本語が上手な若い
外国人女性から「がんばってください
ね」とエールを頂きました。

2：30頃、飼い主さんに猫を無事、
引渡し終了。最後になった若いご夫婦、
Fさんの猫の名はニャンコ。

夏まで避難所となっていた中央公民
館がある高台から大槌町をカメラに収
めました。雪は全くないものの風が強
い。眼下に見える町並みは大きな廃屋
が所々に残っているだけ。ふと足元を
見ると、墓地在山の上から麓まで続い



ています。町のご先祖様たちが破壊されていく町の様子を見ていてどうすることもできなかった…そう思うと胸に迫るものがありました。

町中（…といっても周りは廃墟、建物がちらほら）にあったテント仕立ての「復興食堂」で遅い昼食。7、8人のお客がいました。外でカメラを向けていたら体が吹き飛ばされそうな突風。ガラガラと建築資材が飛んで、地元の若い人たちが飛び出してきて片付けていました。町中でよく見かける赤と青の散髪屋さんの看板がクルクル…。プレハブで営業していました。こうして少しずつ町が活気を取り戻しつつあるのです。

青森に避難して来たワンニャンたち



3/29 仙台



4/15 仙台



6/11 飯舘



6/22 福島



6/22 福島



11/26 仙台



7/3 仙台



7/3 仙台



7/26 仙台



7/3 仙台



7/26 仙台



7/26 仙台



8/1 仙台



8/1 仙台



8/1 仙台



7/3 仙台



12/9 仙台



7/26 仙台



10/22 福島



7/26 仙台



7/26 仙台



7/26 仙台

●2011.4.11～2012.12.9 県外からの当会引受分(後日、譲渡支援含む)

◎福島原発事故「避難移動のとき、ペットは駄目」と行政が指示！？

「避難移動のとき、ペットは駄目」と言われた事例が福島原発事故避難区域では多発し、現在でも避難区域で放浪、飢餓の瀬戸際にある犬・ねこが多数存在します。また、捜索・保護活動が断続的に行われています。

この混乱の原因は、行政の避難誘導の指示書「地域防災計画」にペットの避難誘導規定が盛り込まれていなかったからだと言われています。この規定が盛り込まれなければ、大規模災害発生時には、同様の混乱を引き起こすのではと懸念されています。もちろん、原発・核燃サイクル施設が立地している青森県もです。(敦賀)

長島一由衆議院議員(民主党)ブログ
<http://nagashimakazuyoshi.seesaa.net/archives/201105-1.html> より転載↓

自家用車を所有している人はペットを連れ出したケースと、「すぐに戻れるから」と思ってペットを自宅に置いて出た人のケースに分かれます。

ところが自家用車を所有していない人は行政が手配したバスに乗り込む際に、「ペットはダメです」といわれ、やむなく置いて避難した人がいたということでした。

富岡町に住む 83 歳のこの男性は震災時から 3 日間ほど避難拒否をしていたといいます。

しかし、逃げるよう説得された時に「ペットはダメ」と言われたものの、「犬を連れて行っちゃダメなら俺は死ぬ」などと主張し何とか連れ出すことを認めてもらったと話していました。

川内村の避難所に 2 日、郡山市のビッグパレットに 1 日と避難所を転々としながら、猪苗代町の避難所にたどり着き、

これまでも今も、軒先のベンチにリードをつないで飼育しているということでした。

◎東日本大震災:猫 80 匹たくましく宮城・石巻の田代島

人口より猫が多い「猫の島」として知られる宮城県石巻市の田代島。東日本大震災の津波で甚大な被害を受けたが、島民に大事にされてきた野良猫たちは地震や津波に負けず、たくましく生き延びていた。

田代島は、作家・井上ひさしさんが「ひよっこりひょうたん島」のモデルにしたともされる島の一つ。かつては養蚕が盛んで、猫はネズミよけとして飼われていた。やがて猫が自然繁殖を始めた後も「大漁を招く」として島民に大事にされ続け、島の中心部には「猫神社」も建つ。島民によると、震災前と変わらず約 80 匹の猫が生き延びたとみられる。

海岸近くの自宅で野良猫に餌やりをしている島山和子さん(72)は「地震の時は、私たちよりも逃げるのが早かったくらい」と当時を振り返る。津波が引いてしばらくすると、山の方から猫が下りてくるのが見えた。「きっと猫神社の方へ逃げていたんでしょう」

心配なのは餌不足。島の仁斗田漁港で漁師の「おこぼれ」にあずかる猫が多かったが、漁港は津波で壊滅的被害を受け、漁業再開のめどは立っていない。猫たちは今は各地から送られたキャットフードを食べているという。

船や車、カキの養殖設備などを津波で失った阿部頼男さん(73)は「猫に魚を食わせてやりたいが、自分の生活で精いっぱい」。電気や水道も完全には回復しておらず、島に 7 軒ある民宿は休業中で、観光客受け入れも厳しい。島の復興は猫たちの運命も左右しそうだ。

(2011. 5. 27 毎日新聞より転載)